

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q2 運営面で工夫したこと
ゆうゆうクラブ	相双	長期休業時と同じように、保護者さんから利用希望をとり、なるべく希望にこたえられるように調整した。午前中は児童発達支援のお子さんも利用していたので、放デイは午後からの利用が可能な方は、午後からでお願いをして、児童発達支援利用の方にも影響が少ないように対応した。
フェザー	県中	①幼稚園のお子さんがある職員について。幼稚園が休園となったため、子供と一緒に出勤してもらった。職員の子供と利用者が仲良く遊んでいて、職員の不安が払拭出来た。 ②学校が休校期間中は、開所時間を前半後半の二部制にして、利用者を2グループに分けた。結果、大幅に三密を防げた。保護者からも「時間は多少短くなるが、少ない人数なら安心して通わせられる」とおおむね好評だった。
-	県北	室内で出来る運動を取り入れた、プロジェクターを購入し動画を見てダンスをしたり、製作は身近にある素材（割り箸・ペットボトルのキャップ）を使って楽しく活動し、保護者にも連絡帳で知らせた。感染対策としては、家で検温をお願いし文書を掲示して安心してもらえる様にした。
-	県南	利用児の数が多くない日には、支援の質が下がらない程度にスタッフを交代勤務にし、時短勤務をできるだけ実施した。
-	県北	学校からの情報、報道（新聞・TV）や児童家庭課メールなどを熟知し休校などの情報を速やかにつかみ、事前に放課後等デイサービスの取り組み、家庭へのお願い、朝からの開所、分散療育などについて文書を発行して伝える。
-	県北	現状を踏まえ、モニタリング等は電話対応をすることを確認し合って実施。
のびっこらんど船引	県中	手指・手すり・ドアノブ消毒、マスク着用の呼びかけを徹底した。（マスクをされていない方にはマスクの提供） 来園時の検温を行った。 行事関係は密を避け、最小限の規模で行った。
-	-	新規受入の際、法人のマニュアルに沿って実施することで、受入時期などの調整、相手方の理解を得ながら実施できた。
オハナ・おうえんじゃー (ハナイ・リノ・マカナ)	県北	・未就学は昼食前までとし、飛沫の飛ぶ食事場面は避けるようにした。（時間変更が困難な家庭は、そのまま対応） ・就学児は学校が休みだったため、午前、午後の2部制としお仕事等で難しい家庭は一日利用で対応した
総合発達支援プラザ ふらっふ1号館	会津	・当事業所は、午前（9時～13時）の児童発達支援と午後（13時～17時）の放課後等デイサービスの2つの事業を行っている。入れ替え時間の密を避けること、共用する環境や遊具の消毒を行うため、送迎時間の協力を要請したことで感染拡大防止の対応を行う時間・人員を確保することができた。（午前利用者は12時半を目安に、午後利用者は13時半を目安に送迎の協力を要請した）また、施設内の立ち入りについても、地域の状況に合わせて制限をしながら対応している。
子どもデイサービスしもごう	南会津	・保護者に対し、少人数で施設利用で安心して利用してもらえるようにした。
放課後等デイサービス コール	県北	・休校が決定してすぐに、利用についてと感染防止対策についてのお便りを出した。
こども支援センターハイジ	県北	ご自宅で過ごすことが可能なお子さんについては、なるべくご自宅で過ごしていただきました。ソーシャルディスタンスの確保が難しい状況でしたが、職員のマスクと手洗い消毒、掃除の徹底、1時間に一回換気を行い、リスクを最小限に抑えました。県外への外出もなるべく控えていただいたり、面談なども一部電話で対応させていただくなどしました。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q2 運営面で工夫したこと
福島県郡山光風学園	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・通学している学校の休校状況に応じて、支援体制を調整した。 ・全国的な感染拡大初期時から、状況に応じて随時感染症対策委員会を開催、協議し、職員の対応の統一を図った。 ・感染管理認定看護師を講師として依頼し、新型コロナウイルス感染症の現状と対策について研修会を開催した。 ・保護者に感染防止対策実施状況を随時説明し、必要時は、文書の送付や掲示、HPへの掲載を行い、理解と協力を求めた。
総合発達支援プラザ ふらっふ2号館	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見ながら、保護者への対応のお手紙（お子さんの受け渡し場所等）の配布、掲示等を行った。必要に応じて、お子さんの施設での様子等は、電話での対応を行った。
福島県大笹生学園	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都を中心に急速に感染が拡大したため、県外への移動自粛や手指消毒の徹底、3密回避などをお願いする文書を保護者に配布した。 ・短期入所や日中一時支援サービスを利用する際、入所児童が帰省から学園に戻ってくる際には、児童本人と家族の体温や健康状態、感染拡大地域との往来の有無等をチェックシートに記載の上提出してもらい、もし疑問点等があればさらに詳しく聞き取りを行って、学園内へのウィルス感染を水際で抑える対策を行っている。チェックシートを毎回提出するのは利用者側にとって手間ではあるが、学園が行っている感染防止対策について、信頼と理解が得られていると思う。
伊達市ひまわり園	県北	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、感染防止対策を文書や写真などで具体的に提示し、安心して利用してもらえるようにした。
-	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止対策（マスク、消毒、検温、換気等）出来ることは行った。 ・保護者に文書を通じて知らせた。 ・保護者との引継ぎなどは玄関内で実施している（居住棟までは入室しない）。
プレップスクール玉川教室	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・うがい・手指消毒の徹底 ・職員はマスク着用の徹底。利用者にもできる範囲で着用 ・次亜塩素酸水噴霧器による空間洗浄
社会福祉法人安積愛育園 通所支援事業所チエロ	県中	<ul style="list-style-type: none"> グループを分けて少人数での療育にしている為、大きく制限をかける事はなかった。
入所支援事業所アルバ	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対し、感染防止対策や利用にあたってのルールを文書などで提示し、安心して利用してもらえるようにした。
児童発達支援事業所 らぼらぼら	県中	<ul style="list-style-type: none"> お電話による在宅支援は当事業にとっては良かったです。ただし、お仕事をしている母親もおり、電話できる時間の指定などもありお互いの工夫は必要でした。また子ども一人一人の様子をよく聞いて、家庭でできる内容を具体的にアドバイスできたことがお母さんたちのモチベーションの向上につながったと思います。
発達支援センターいずみぎき	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所における感染症に関する対策や取り組みについて家族に通知。 ・感染症に対する不安や心配を抱えている保護者に対し電話などで相談を受けた。自粛期間が長引く中、家庭で過ごすことが難しいなどの状況もあり、事業所の利用を希望する家庭が多かった。
leaf	会津	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防対策として送迎乗車時や事業所到着時の検温・消毒・手洗いうがい・換気の徹底と保護者送迎時のご家族の健康状態確認等の実施について事前に書面配布と事業所入口に提示した。
-	相双	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ方針を①弁当持参②家庭による送迎③基礎疾患のある児童の自宅待機の呼びかけ④自宅見守りが可能な児童は自宅見守り⑤マスク着用励行の依頼を行った。そのために、利用児童は減少した。約1か月後感染症の推移を見つつ、受入れ方針の見直しを行い、事業所よりの送迎、昼食の提供を開始、マスク着用の出来ない児童には指導するなどの対応を行った。
-	県南	<ul style="list-style-type: none"> 運営については、予定通りに開所し、増員、減員はありませんでした。
桜が丘学園	県中	<ul style="list-style-type: none"> 行事については中止にするのではなく形態を変えて三密を避けて実施しました（食事会、夏祭り、おやつ外食、小グループ旅行）
エンジェル園	県中	<ul style="list-style-type: none"> コロナの対応については文書等で周知し保護者さんの理解と協力を得ることができた

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q2 運営面で工夫したこと
児童通所支援 ゆずりは	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関する保護者向けのおたよりを作成し配布している。（体調不良の際の事業所の利用の仕方や感染の恐れがある場合の対応について） ・行き場がなくならないよう受け入れをしたが、感染拡大予防のため家庭で過ごせる方や心配な方については利用を控えて頂き、お休みをしている期間は電話連絡をして状況確認を行っている。 ・保護者へのアンケートの実施。（自宅での外出状況及び事業所活動(外出を含む活動)の意見の聞き取り。
-	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対し、感染防止対策を文書や写真などで具体的に提示した。また、利用の可否の状況に関しても文書を配布した。
BOSCO KIDS 磐梯	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言を受けて、事業所としての対応をお手紙でお伝えしたり、手洗い、マスクの正しい着け方のリーフレットをお渡しし、家庭でもできる予防に努めて頂いた。また、密を避けるために食事時間はアクリルパーテーションで仕切る等の対応を行った。
-	いわき	<ul style="list-style-type: none"> 利用児の保護者に感染者が出た際に、保健師さんが入ってくれて消毒の徹底を学ばせてもらったので、そのことを保護者に説明し安心して通所を再開してもらえた。
重症心身障がい児通所支援事業所aozora・リノ	県北	<ul style="list-style-type: none"> 保護者あてに事業所方針を通知し、職員体制やサービス時間短縮、児童個々の単独送迎対応、家庭内での感染対策などの理解と協力を図った。 施設入口に車イス（タイヤ）の消毒槽（自動車の室内マットを活用した簡易型）を設置、手洗いスタンプを活用した職員への手洗い研修などを実施した。
放課後等デイサービス事業所 光の家	いわき	<ul style="list-style-type: none"> 同法人内でいくつかの事業所を利用してくださっている利用者には、感染拡大を少なくするため、期間中は同じ事業所のみで受け入れ態勢を整えた。
-	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止策をとる時は、保護者に対して、その都度根拠と方針を文書や掲示で知らせるように心がけた。
放課後等デイサービス セカンドハウスわくわく	いわき	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対し、事業所で行っている感染防止対策を文章や写真などで提示し、安心して利用してもらえるようにした。（わくわく通信）
-	いわき	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、国・県の感染状況を把握し、事業所としての感染防止対策について共有し、利用者や保護者に提示し安心して利用してもらえるようにした。
キッズスペースぶらーぼ	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの健康管理、不安の軽減のため、リフレッシュ休暇を付与した。 ・上記対応のため雇用調整助成金の活用 ・代替サービスの充実 ・衛生用品の確保（マスク等の寄付の依頼）、民間助成金の活用。 ・給与、賞与は予定通り支給することができている。
-	いわき	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言中は、感染リスクに関する同意書を記入していただいた上で受け入れを行った。
あづま児童支援センター「宙-そら」	県北	<ul style="list-style-type: none"> 外来者（保護者を含む）の対応は、原則、職員玄関前で対応、やむを得ず入室する場合は、検温、消毒、うがい等を実施、その後、別室で対応した（マニュアル化）。
児童通所支援事業所 さくらんぼ	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所入り口に体温計を設置し、検温、手指消毒後に入室してもらった。 ・感染予防対策の取り組みを写真入りの文書を作成し、配布した。 ・2週間に1回問診票を配布し、利用児童だけでなくご家族の体調や外出状況の把握に努めている。（同様に職員にも実施している。）
放課後等デイサービス アルケンII	いわき	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、感染防止対策を文章や絵などで具体的に提示をした。
放課後等デイサービス れいるd	県中	<ul style="list-style-type: none"> 対応方法や営業時間帯などの体制変更を書面にて保護者へお知らせしました。 新規の見学希望者は、数か月対応を見送らせてもらいました。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q3 療育場面で工夫したこと
ゆうゆうクラブ	相双	非接触型の体温計で検温をするようにし、ポスターで検温の協力を提示したり、使ったおもちゃなどは、療育が終わったら必ずアルコール消毒を行い、消毒チェックシートを作成して、消毒漏れが無いように工夫した。
フェザー	県中	①三密を心配する利用者に対して、一部屋の人数が増え気味の時には、それぞれ別室に案内する等して、不安を軽減することが出来た。 ②トランジションを使って、利用者全員の「おやつ」のタイミングをずらし、マスクを外す場面での三密を防いだ。
-	県北	・以前から飛沫感染や手洗いがいについてはSSTの中で話をし、実施してきた。SSTの中でマスクの着用、手指の消毒、声の大きさなどを、紙芝居や絵カードを用い新たに指導をし分かりやすく身に付くようにした。 ・外出や、クッキングは、感染予防の観点から実施を見合わせ、室内での、工作、小グループでの遊びなど感染予防を考慮し、事前に立案し、見通しをもちながら、子どもたちが楽しく飽きずに過ごせるようにした。
オハナ・おうえんじゃー (ハナイ・リノ・マカナ)	県北	・昼食場所を分散し、飛沫対策を行った。 ・不特定多数の人が出入りする屋内への外出は原則中止とする。 ・代替の活動として日頃の活動やイベントを、バージョンアップして行った。 ・消毒の仕方、や手洗いなど普段より丁寧に伝えることができた。 ・マスクは着けられない子も多くいたが、スモールステップで練習することで着けられるようになった。
こども支援センターハイジ	県北	密にならないよう、普段1部屋で行う療育を2部屋に分かれたり、食事の際はテーブルをいつもより多く使用し、ゆったりと席に座って貰いました。活動ごとに教室を変え、都度換気を行いました。
福島県郡山光風学園	県中	・今までと変わる支援内容（日課の変更、飲食方法、遊びや学習方法等）について随時説明し、絵を多く取り入れた分かりやすいチラシの掲示を行った。
福島県大笹生学園	県北	・学園に勤務する職員全員が毎日検温と体調チェックを行い、管理職等が確認する取り組みを継続して行っており、もしも発熱があった場合は無理に勤務せず、他の職員に代わってもらうことにしている。また、入所児童に発熱があった場合も、早めに医療機関を受診させ、帰国者・接触者相談センターに相談してPCR検査を受けさせるようにしている。 ・園内での感染防止を図るため、手洗いとマスク着用について、分かりやすいように絵で掲示している。 ・共通空間でのマスクの着用を児童に求めているが、障害の程度により着用することができない児童がいる。 ・園内の換気・消毒を時間を決めて行っている。 ・来園者すべての体温チェック時、個人防護具（キャップ、フェイスシールド、マスク、手袋）を装着して対応している。
伊達市ひまわり園	県北	・学校の休校が決まった翌々日に、利用されているお子さんに対し、スケジュールが変わること、混雑するため使えるスペースが限られることを説明した。お子さんによって、文章で伝えたり、絵で伝えたりした。
-	県南	・学校休校に伴って、日課の見直しを行ない、学習、運動、レクリエーションの時間を設定、工夫して実施した。 ・コロナ関連ニュース等を見て過敏に反応する児童には個別面談を実施し精神面でフォローした。 ・買い物訓練が出来なかったため、園内で模擬買い物訓練を行なった（職員が購入したおやつに値段を付け、おもちゃのお金を使って購入する）。
プレップスクール茶畑教室	県中	なぜ学校が休校になったのか？が気になる利用者様が多かったため、分かりやすいように説明をしていった。対面にならない様に座席の位置を考えたり、療育スペースを変えて三密にならない工夫をした。
プレップスクール大黒教室	県中	もともと学習ソフト（PC）などを使った学習支援が中心なので、個別の対応が中心になります。三密を避けやすい環境になっています。
入所支援事業所アルバ	県中	看護師と協力し、消毒等の仕方を具体的にし予防に努めている。また入所児対象行事や活動等にもルールを設けている

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q3 療育場面で工夫したこと
児童発達支援事業所 らぼらぼら	県中	絵カードなどを利用して「感染症」「その対策」などを子どもたちにわかりやすく説明しました。席が離れていることを不自然に感じた子どももあり、お友だちの近くに座ろうとしたときなど役に立ちました。またマスク、手洗い、消毒も早い段階で習慣化されました。
発達支援センターいずみざき	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループ療育、個別療育の場を増やしたことにより安定する児童が増えた。しかし、仲間づくりや集団参加の機会が少なくなった。 ・戸外あそびや散歩の時間を増やし、密を避けのびのび過ごす時間をつくった。 ・手洗いや消毒など感染予防について、イラストや映像でわかりやすく説明をし毎回取り組むことで習慣化できた。
-	会津	児発、放デイの同時サービス提供時は、室内あそび、外あそびで活動空間を分ける、未就学児と小学生と一緒にあそべる小集団活動プログラムへ変更し対応したこと等、環境設定の工夫で新たな発見（コミュニケーションや社会性）もみられた。
ファミリーキッズ会津若松2	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間事業所内で過ごすことになるため、体を動かす活動を多く取り入れたり昼食後の休憩時間を入れたりメリハリをつけるようにした。 ・開設時より登園時の検温や手指消毒は実施していたため混乱はなく対応できた。
-	相双	当初は、マスク着用が出来ることを受入れ条件にしたが、複数の児童が着用出来ない旨の連絡があり、着用のトレーニングを行うことも含めて利用受入れを行うことにした。みんなを着用することを視覚的に伝え、声掛けを重ねて、あごマスクが第一段階とした。その後は一人一人の行動パターンの中で声掛けを続けている。
すぎのこ園	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援を利用している幼児に放課後等デイサービスを利用している児童が朝から登園することを分かりやすく伝えることで混乱をなくした。 ・1日のスケジュールの変更や換気、消毒等の対応を絵で示し分かりやすくした。
桜が丘学園	県中	それぞれの生活エリア、居室、ダイニング、食堂等にパーテーションを設置することで密にならない生活空間にしました。帰省ができない状況について本人が理解できる方法で個別に支援し見通しが持てるように伝えた事で大きな混乱はなかった
エンジェル園	県中	それぞれのエリアにパーテーションを入れ、密にならないように配慮した
児童通所支援 ゆずりは	県南	・感染拡大の防止を含め同法人の放課後等デイサービスと連携を行い活動を行っている。その為、日課のプログラムの変更や活動の仕方など検討し対応している。外出等は控えたため活動がマンネリ化しないように児童にも活動内容の希望などを聞きながら対応した。
のびっこらんど美山	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・机の配置を、学校のような配置にして、密にならないようにした。 ・学童児には、藤田医科大学感染症科監修の「コロナウイルスってなんだろう？」を紙芝居のようにして、取るべき行動を確認した。お子さんによっては、なぜ学校が休みになっているか、わからないお子さんもあり、この説明を聞いて理解できる場合もあった。
BOSCO KIDS 磐梯	会津	・リーフレットや絵カードを使用し、現在コロナが流行していること、予防方法、手洗い、うがいの必要性などを活動の一環として取り入れて説明を行った。
-	いわき	正しい手洗いの方法や、うがい、手指の消毒の方法を利用児全員で再確認し、歌を歌いながら手洗いを実施するなどの工夫をした。
重症心身障がい児通所支援事業所aozora・リノ	県北	<p>面談室を含め、活動スペースとして拡張を図り、利用児童の個々のスペースを確保した。</p> <p>学校休校中の利用においては、仕事に就いている保護者などを除き、午前は小学生、午後の中・高校生としての利用の時間帯区分を設け可能な限り「密集」を回避し、昼食は各家庭での対応として極力「密接」となる支援を回避した。</p>
放課後等デイサービス プラムだいすき	いわき	・利用者を分散させるために、学習室や活動室など、同時に活動する場所を増やして対応した。
-	県中	就学前の児童では、保護者が利用を控えるといった対応をしていたため教材を郵送するなどして家族による療育をすすめた。放課後等デイサービスでは出かけるところもなく、利用を希望する者が多かった。
-	県北	感染を警戒して来所できない利用者にはzoomを使ったオンライン支援を行った。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q3 療育場面で工夫したこと
放課後等デイサービス セカンドハウスほっぷ	いわき	感染防止のため手洗いや消毒の話、マスク着用の話を視覚的にイラストや文章で伝えた。
放課後子どもクラブぴこ	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理、検温、消毒の徹底。マスクも極力着用を促す。 ・感染予防（マスク、消毒など）について、子どもたちへの視覚提示を行なう。 ・活動場所分散させる。午前と午後に分けて療育活動を行なう。 ・食事場面のサービス提供を行わない。 ・運動プログラムを隔週、グループ別にし、三密を避ける。
-	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・代替サービスとして、ご家庭で静かにできる運動をイラストにした資料を配布し、電話やメールなどで実施確認をした。 ・学習支援のため一人ひとりに個別のテーブルを用意し、個別に仕切り集中して学習できるようにした
-	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom利用始めた。・密を避けるため、外遊びを増やした。
放課後等デイサービス宙	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童の検温及び保護者からの受け渡しを駐車場で行った。 ・密になることを極力避けるため活動場所、活動内容を調整するとともに、療育時間中も定期的に換気・消毒を行った。 ・学校の休校になったことによりスケジュールが変わったことを、利用児童に対し文章で伝えたりイラストで伝えたりした。
放課後等デイサービス アルケンII	いわき	昼食時やおやつ時、着席時に対面にならないように工夫をしたり、場合によってパーテーションを設置した。
放課後等デイサービス れいるd	県中	<p>活動スケジュールを2パターン作り、事業所で過ごす人数をできるかぎり最小限にしました。</p> <p>おやつ、制作などの活動では対面を避け、同じ方向を向いて行いました。</p> <p>手洗い・手消毒などを促すため、コロナに関する紙芝居を作り、提示しました。</p>
放課後等デイサービス そらば	県中	<p>送迎車内でのコロナ対策のため、マスクの着用や話を控えることを視覚提示で伝えました。</p> <p>おやつの際は、1人1人の間隔を取れるようにテーブルを追加購入し、間隔を空けて同じ方向を見ながら食べる環境を作りました。</p>

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q4 保護者（家庭）支援で工夫したこと
放課後等デイサービス パル・タヤけこやけ	県南	行政等からの通知をその都度配布して理解を得るように取り組んでいる。
のびっこらんど愛愛	相双	休校期間中、宿題など学習課題の面で家庭の負担が増え、保護者とこどものストレスがたまりやすい状況だったが、保護者の負担を軽減したり、こどものストレスを発散できる活動内容に重点を置いて運営した。
子どもデイサービスしもご う	南会津	・いつでも電話相談できることを伝えた。
総合発達支援プラザ ふ らっふ3号館	会津	・感染した場合に重症化が予想されるお子さんが多いこともあり、在宅での支援の希望があった際には訪問で対応した。
総合発達支援プラザ ふ らっふ2号館	会津	・親御さんの個別相談会をリモートで行った。
放課後等デイサービス ひ だまり	県中	自施設内での日中一時支援から放課後等デイサービスへの繋ぎ
医療型児童発達支援セン ター おひさま	県中	児童発達支援後の自施設内での日中一時支援への繋ぎ
伊達市ひまわり園	県北	・感染リスクを過度に心配し、不安定になっている保護者に対し、国や県の資料などを使って、適切に警戒してもらえるように説明し、いつでも電話相談できることを伝えた。
社会福祉法人安積愛育園 通所支援事業所チエロ	県中	・感染対策で自宅から外出していない方もおり、保護者も疲労感がみられていたので、自宅で実施できる1週間分の課題や、制作ツール等を自宅に配達、郵送してお渡しし、自宅 で実施してもらった。 ・日ごろからお迎え時に悩み相談等をお迎え時に聞いていたが、待機場所での混雑を避ける為と対面での接触を控える為、書面（相談票等）やメール電話等で悩みについて回答す るよう代替で提供した。
発達支援センターいずみざ き	県南	・感染症に不安を示し、長期間利用を控えている保護者に対し電話で様子伺いをした。家庭での困りごとや心配ごとについて相談にのり必要なアドバイスをした。 ・保護者と対面し話をする機会が減ったので、連絡ノートや電話でのやり取りを増やした。 ・例年4月に実施していた保護者会を6月に感染症予防の対策をし実施。
社会福祉法人安積愛育園 こどものひろばプリモ	会津	今までお迎え時など対面で悩みや相談等をお聞きしてきたが、なるべく密になる事や接触を避けるために対面で話す時間を減らす代わりに電話やメールでの相談を実施した。
すてっぷ	県南	福島県作成のリーフレットを配布し、マスク着用や手洗い・うがい等の感染予防について協力の呼びかけを行った。
児童通所支援 ゆずりは	県南	・保護者の方には、おたよりで発熱時の対応や事業所で行っている新型コロナウイルス感染症の対策などをお知らせしている。 ・またお子さんの健康状態などを細かい様子を連絡帳や引継ぎの際に細かく伝えている。
のびっこらんど美山	県中	・新型コロナ感染予防のため、当事業所の利用を控える方がいた。その方には、家で取り組める簡単なプリント課題と、呼吸法やセルフリラクゼーションのプリント、室内ででき る遊びの紹介プリントなどをご自宅に郵送した。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q4 保護者（家庭）支援で工夫したこと
のびっこらんど相馬	相双	感染を心配して長期に欠席が見込まれる利用児については、保護者と相談して自宅に取り組める課題をリストにし、ポイントを伝えながら教材を貸し出す等フォローをした。
BOSCO KIDS 磐梯	会津	・緊急事態宣言時、利用をお休みしていたお子さんには、事業所で行っているプリントを用意し自宅へ届け、支援の継続に努めるとともに状況確認を行った。 ・何かあればその都度メールや電話でご連絡していただくようお願いした。
重症心身障がい児通所支援事業所aozora・リノ	県北	仕事に就いている保護者の児童の利用時間の配慮や訪問支援の際に同様に学校休校となっている兄弟と一緒に散歩による外出を支援した。
放課後等デイサービス プラムだいすき	いわき	・学校の長期休業期間中、保護者の要望により、職員の勤務時間をシフト制にしてサービス提供時間を拡大して保護者が働きやすいように配慮した。 ・利用者の療育上の課題解決へ向けて、学校や医療機関、相談支援事業所、地区保健福祉センターとの連携した対応に努めた。
児童通所支援事業所くるみ	県中	保護者支援のために月/1回くるみカフェを開催しているが、参加者が少ない状態が続いている。
放課後等デイサービス セカンドハウスわくわく	いわき	・学校休校中に感染防止を考え、自宅で過ごしている保護者には利用日に電話相談を実施。また、学校再開後は降所時に話しをする等し家族が孤立しないよう努めた。
キッズクラブからころ	県中	・日々変化する状況の中、小まめに早急に事業所より案内を送付し、対応や協力をお願いを丁寧にしたことで、大きな混乱はなかった。 ・ご家族との協力（自粛や短時間提供、送迎の協力など） ・代替サービスの提供、ご理解（電話、相談、訪問、安否確認、個別対応、教材の提供など）
障害児通所支援 あしび	いわき	利用を控えて頂いた家族に対し、1週間に1回程度変化がないか等メールやLINEで連絡をした。
あづま児童支援センター「宙-そら」	県北	保護者への連絡方法として、、電話の他、登録メール（さくらメール）を活用した。その際、感染予防対策を文書や写真等を送信し、安心して通所できるようにした。
こどもサポート教室『クラ・ゼミ』福島校	県北	短い時間でも保護者様と話す時間を取ったり、電話で相談の話し合いを持ったりと保護者様が相談できる環境を整えています。
NPO法人子どもの家 第二子どもの家M・A・Y	いわき	・お休みをされるご家庭には定期的に電話連絡を行うことで、保護者の不安感や孤独感を軽減できるように努めた。お休みの期間が長くなってしまった利用児には、保護者と相談の上、自宅のできる学習課題の郵送を行った。
放課後等デイサービス アルケンII	いわき	緊急事態宣言中、保護者に電話連絡をし、利用者の安否確認を行った。
放課後等デイサービス れいるu	県中	感染してしまう事を心配して利用を控えていた家族に対し、電話で本人の様子を聞いたり、親御さんの困りごとを聞き対応策など一緒に考えました。 来所を控える期間が長くなりそうな家庭には、事業所で使用している課題等の貸し出しを提案しました。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q5 他機関との連携で工夫したこと
フェザー	県中	電話相談の中で、休校中にゲームで昼夜逆転しそうなケースがあり、学校の担任に連絡をして打ち合わせを行い、当該児童に早期介入し生活面を立て直す事が出来た。
-	県南	近隣事業所と情報交換を密にし、できる限り地域全体で対象児童のサポートを行う体制づくりを目指した。連携し足並みをそろえた。
こども支援センターハイジ	県北	事業所の併用をされている方については、事業所間で連絡を取りながら支援を継続させていただきました。その他の機関との連携については、普段手渡ししている書類を郵送したり、訪問による情報交換ではなく電話やメールでの情報交換で対応しました。
福島県郡山光風学園	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉事務所から対応マニュアル作成にあたり、助言を得た。 ・保健福祉事務所内での研修会に参加させてもらった。 ・学校で使用しているフェイスシールドの作成方法について教えてもらい、実際に作成し活用することが出来ている。（聴覚障がい者、児とのコミュニケーションをとる中で見られるマスクの弊害対策）
総合発達支援プラザ ふらっふ2号館	会津	・保育所等訪問支援が感染防止のために行えない時期に、電話での情報共有等を行い、支援の連携を図った。
伊達市ひまわり園	県北	対面の会議について、先送りできるものは先送りにし、緊急性の高い案件などは、Zoomを用いて、話し合いを行った。
入所支援事業所アルバ	県中	他事業所との共有スペースや共有する公用車の清掃等のルールを決め、スタッフ全員で務めた
発達支援センターいずみざき	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携は電話やメールのやり取りが中心だった。 ・地域の子ども部会において、市町村の対応や他の事業所の状況について情報共有ができた。
-	会津	緊急事態宣言解除後、保育所等訪問支援において、訪問先との感染予防対策を共有しながら、可能な限り訪問支援での対応を実施した。
放課後等デイサービス 楓	県南	・行政との会議等については中止となり、参加は行っていないが、学校の休校情報などは教育機関との連絡確認を行いながら対応をした。
すてっぷ	県南	行政からの各通知について、行政や他事業所と連絡を取り合い解釈の擦り合わせをしながら対応した。
児童発達支援事業所 いろどりキッズ	県南	感染対策を最優先し、極力人との接触を避けるため先送りできるものは日程をうしろにずらしました
-	県南	子ども支援部会の中の事業所連絡会にて現場の意見、管理者の意見を照らし合わせた結果、できれば地域で対応は統一されていた方が良い。行政を交えて対応方法を検討していきたいという流れになっています。
桜が丘学園	県中	他事業所との連携、情報共有することによって、事業所として、やるべき役割の確認をすることができた
エンジェル園	県中	休校期間は担当者会議を見送り、状況を見ながら必要な会議に関しては場所や空間を十分に配慮し開催し連携した
のびっこらんど美山	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省より、4月6日に布マスクの配布がありましたが、利用児のマスク不足は改善されないでいたところ、4月21日に、大きな段ボール1箱分のマスクを市の福祉課の方が、持参してくれた。行政が気にかけてくれていることがわかり、その後の連絡がしやすかった。 ・他の事業所とは、開園状況を確認しながら、利用を希望している方の要望に応えられるよう受け入れ体制を整えた。
発達支援センターたなぐら	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・各教育機関からの情報を得られるように、保護者向けのメール配信等に登録しておいた。 ・行政の障がい担当者へ教育委員会からの情報についての提供を依頼し、町で決定した休校の情報を得ることが出来、助かった。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q5 他機関との連携で工夫したこと
重症心身障がい児通所支援事業所aozora・リノ	県北	全国重症児者デイサービス・ネットワークの加盟事業所とのオンラインミーティングを行い、他の事業所での取り組みや課題を参考に対応することができた。
-	県北	・支援会議等は、緊急性や保護者さんの強い要望があったときのみ、感染予防対策をとって開催したが、それ以外は先延ばしにした。
-	県北	・毎年おこなっている学校見学は、時期が若干遅れたが希望者を4, 5才児に限定し密にならないよう配慮したうえで実施できた。
放課後等デイサービスセカンドハウスほっぷ	いわき	対面の会議について、先送りできるものは先送りにし緊急性が高い案件は電話での話し合いを行った。
放課後子どもクラブぴこ	県中	・学校休業の判断を参考に、事業所の対応を行ってきた。 ・いくつかの事業所と近況報告をし合い、療育や保護者支援についての情報交換を行なった。（代替サービスの在り方など）
障害児通所支援 あしび	いわき	他の事業所へ直接電話をしどのような対応をとっているのか等情報収集した。
あづま児童支援センター「宙-そら」	県北	対面の会議については、原則、中止、会議内容については、メール等を活用し、紙面で連絡等をし、共通理解を図った。
子どもの家保育園	いわき	学校への連携は、相手方が嫌がらなければその時期に行った。子どもたちが休みなので、先生方が比較的時間を自由に設けてくださっていたので、時間の調整もとてもつけやすかった。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q6 課題に感じていること
ゆうゆうクラブ	相双	今までは、身近に感染が広がっていなかったのが、良かったが、今後感染が広がった場合は、より厳しい対応をしていかなくてはいけないと思うが、マスクが苦手なお子さんや、動きの激しいお子さんに対する対応をどうしたものか、悩ましい。
フェザー	県中	もし、利用者や職員に濃厚接触者や、濃厚接触者に接した者がした場合、休業したほうが良いのか。休業するなら、何日間休業したほうが良いのか。基準があると助かる。雇用調整助成金などの申請手続きが難しく、いざ、利用したいとなった場合にすぐに申請できるか不安。社労士等に依頼したいが、委託費などに助成があると助かる。
放課後等デイサービス パル・タヤけこやけ	県南	新しい生活様式に準じた環境作りと、新しいスキルとして療育していかなくてはならない日常生活スキル等。
-	県北	感染者が発生した場合、濃厚接触者が発生した場合の施設の運営の仕方（開所・閉所する日数）などについて。
のびっこらんど愛愛	相双	衛生面、ソーシャルディスタンス、3密の回避など。また、行事・イベント、保護者向けの勉強会など、企画したいことはあるがどのくらい配慮すればよいのか判断が難しく開催に至っていないこと。
オハナ・おうえんじやー (ハナイ・リノ・マカナ)	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携（特に学校）・・・家庭対応が困難や受け入れ先がない児童については学校にて対応するとのことであったが、実際には利用が難しいケースが多く、事業所が密の状態になったり、生活リズムを崩す児童がいた。個別の配慮が必要なお子さんにはもう少し柔軟な対応や連携しての対応があればよかったと感じる ・スタッフ体制・・・育児や介護をしているスタッフも多いため、幼稚園やデイサービスなどが営業停止となってしまうと事業所の体制を維持することが困難 ・判断を市町村にゆだねられることが多く、近隣市町村での対応がバラバラであり対応に苦慮した。 ・基本的に事業の継続が求められていた保育所や児童クラブが本地域では営業停止となった。同じように事業の継続が求められていた福祉サービスとしてどのように対応すべきか迷うことがあった。（特に市町村から連絡はなかった）実施主体が、市町村と県で違うことによるひずみだと感じる。 ・現在まで地域の自立支援協議会が開催されていない為、第1波の課題への対策など、地域の課題として共有・検討されていない。
-	-	新型コロナウイルスに対する認識が職員間で温度差がある。
-	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・対応指針作成時に、どこまでサービス提供が可能かどうかの判断に現在も苦慮していく。例）自事業所利用者が、他事業所で接触（濃厚接触）疑いがあった場合、ご利用をお受けして良いのか？など ・職員の出勤が困難になった場合の受け入れ態勢などの地域での指針
-	県南	・子供を育てている職員は、保育所や幼稚園の休園により子供の預け先がなくなり勤務できなくなった。支援者が不足している中での児童の受け入れは課題と思う。
総合発達支援プラザ ふらっふ1号館	会津	・未知のものに対してなので、一概に「風邪症状」「発熱」という目安を打ち出しても、保護者の方の受け取り方が様々であり事業所としての判断に迷うところもあった。事業所として打ち出した方針に理解を得ていく伝え方や対応の仕方に難しさを感じた。
総合発達支援プラザ ふらっふ3号館	会津	・3号館は医療的ケアや重症心身障害児のお子さんを対象としているが、学校が休校になった間も小集団の場として機能していたため、果たして本当に大丈夫なのか不安な面もあった。
放課後等デイサービス コル	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを長時間着用ができなかったり、玩具等を舐める児童への対応 ・不要不急の外出をする保護者への対応 ・長時間の支援において、ソーシャルディスタンスの難しさ ・支援後の毎日の消毒、清掃作業の負担 ・職員の不安の払拭

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q6 課題に感じていること
医療型児童発達支援センター おひさま	県中	職員自身も不安に感じながら支援に当たっている。密にならざるをえない環境であるため、人に子どもに移す可能性がある。職員のPCR検査の実施（安心して支援を受けられる、支援できる体制）
-	県北	・休校期間中の学習課題への対応。 ・休校や下校時刻の変更が各学校を管轄する市町村等によって異なり、対応に苦労した。また、休校の連絡は週末にくることが多いため、利用確認やそれに対応するための職員の勤務体制の確保が難しかった。 ・手洗いやマスクが苦手な子への対応
社会福祉法人安積愛育園 安積愛育園パローネ	県中	・マスクを着用できないお子さん、うがいをできないお子さんに対して、代わりに予防できる手段などがあれば対応したい。
入所支援事業所アルバ	県中	利用者の感染リスク軽減と生活されている方のQOLとのバランス
児童発達支援事業所 らぼらぼら	県中	当事業所の対象となる利用者が未就学児と年齢が小さいこともあり、特に感染しないことを最優先し、消毒、換気などを行いました。しかし、近隣に感染者が出たことで、家族から不安や心配などの声もあり休業しました。今後もこのようなことがあれば、2週間の在宅支援だけで営業が再開できるのか、疑問もあります。そうなれば、運営に関しては継続できるか心配です。
社会福祉法人安積愛育園 こどものひろばプリモ	会津	感染予防対策として、手洗い、うがい、マスク着用等があるが、マスクを着用できないお子さん、うがいができないお子さん、または人との距離が取れないお子さんに対しては対応に苦慮した。
放課後等デイサービス 楓	県南	・感染リスクへの危機感等、職員個人での意識については違いがあり、会議を通しての統一を行ったが、常に意識していかなければならない。 ・今後感染症シーズンともなるので、発熱があった際の対応及び、児童の活動についても再検討が必要となってくる。
-	県南	・いろいろなケースがあり、行政に相談しても決まった回答をいただくことが少なかった。相談することも多いので、事業所としての対応ガイドライン的なものが必要かと思う。 また、「同居家族に濃厚接触者の可能性があり自宅待機している場合」→「待機後、PCR検査を行った場合」などのフローチャートがあれば、全事業所が最低ラインでの対応が同様にできるかと思う。
重症心身障がい児通所支援事業所aozora・リノ	県北	学校休校についての情報や各自治体による休校対応の相違。 職員の行動自粛を要請する為の基準や目安。 消毒用アルコールや衛生用品（マスク、手袋、ペーパータオル等）の確保。 長期的な利用控えによる事業所の運営。
-	県北	・今までにない事態だったので、マニュアルなどもなく運営等については迷うことが多く、市障がい福祉課に何度もお聞きするなどがあったので、今後に備えて感染症対応のマニュアル作成を進めていきたい。支援については、今回家庭内の問題が多く、その中でも母親と子どものトラブルが多かったことから、想定外の長期臨時休校など、生活環境が大きく変わるときなどの対応策をしっかりと話し合い、事業所としてマニュアル化していきたい。
放課後等デイサービス プラムだいすき	いわき	・事業所内で感染者が出た場合の対応については、市よりガイドラインがでていますが、市や保健所、相談支援事業所など関係機関への連絡・報告、消毒、保護者への連絡、利用者の待機・他事業所利用への依頼、等々、具体的な対応を考えた場合、対応の大変さと運営上からも不安を覚える。
キッズクラブからころ	県中	・事業所運営判断をゆだねられるが、自主休業や感染による休業があった場合の、保障や事業継続するための支援については、今後も不安が残る。

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q6 課題に感じていること
-	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家庭の考えとして、外出を避ける家庭と、家での養育が困難になるので通所させたい家庭があり、利用調整に時間がかかった。 ・代替えサービスを受入れてくれる利用者と、受け入れない利用者があった ・職員自身のお子さんが学校等に通えなくなり、出勤できなくなった。第2波が来た時に休校になるとまた同じ事態になり、困る。
あづま児童支援センター「宙そら」	県北	新型コロナウイルスに対する危機意識が人により差があるため、対応、方針を決めるのに苦慮した。そのため、職員、保護者等の混乱を防ぐため、事業所単位ではなく、法人全体として方針（職員の検温、県外等への移動自粛や届出等、外来者の面会等）を示し、文書等を作成して対応した。
こどもサポート教室『クラ・ゼミ』福島校	県北	コロナ禍での安定した事業所運営、コロナが保護者や利用児、職員の中で出た時のスムーズな動き、支援を行う中でのコロナの不安（利用児、保護者様、職員の中での）
-	県中	今回は、確実な情報が少ない状況での対応だったので、不安だけが先行した状態で、活動すること自体が不安だった。衛生用品が不足し、不安だった。今後の備蓄量や保管場所の確保を検討。
放課後等デイサービスNICO吉倉	県北	<p>健常児を預かる施設ではないので、感染リスクの不安がある。</p> <p>体調不良を自ら伝えられる子どもたちではないので、症状が出ていなければ、就労している保護者は「仕事にいかねばならないので預かってほしい」と預けてしまう。→体調変化したときに、事業所にて隔離対応や早退対応が難しい場合がある。</p>

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q7 今後の備えについて
フェザー	県中	衛生用品の備蓄 学校が休校になったら、すぐに二部制に切り替える予定 雇用調整助成金など情報収集 利用者やその家族が県をまたぐ移動をされた場合、行先によっては2週間利用を控えてもらっている
放課後等デイサービス パル・タヤけこやけ	県南	マニュアルに沿った環境整備と日常業務の遂行。家族、保護者に向けたマニュアルの配布、説明。
オハナ・おうえんじゃー (ハナイ・リノ・マカナ)	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の予防への意識 (利用者) ・新型コロナウイルス対策を視覚提示で周知。マスクの持参、着用(練習も含む) ・室内の常時換気、送迎車乗車時、入室時、おやつ前、帰宅前の消毒 ・各種活動の環境設定の見直し(出来る限りの三密予防) ・保護者へ随時、予防や対策についてメール等で周知 (スタッフ) ・健康・行動記録表への記載 ・朝礼の時短化 ・県外への移動の連絡、相談 ・携帯用消毒スプレーの配布 (その他) ・融資をいつでも受けれるように銀行との調整 ・陽性者が出た場合、建物の消毒等へ速やかに対応できるよう業者と打合せ ・対応策としては第1波の時と同じような対応を考えているが、どのタイミングで発動するかは決め切れていない。 ・マスク、防護服、使い捨て手袋、フェイスシールド、消毒薬などの予防用品の備蓄
総合発達支援プラザ ふ らっぷ2号館	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・施設への入室を制限する。 ・非接触型体温計を購入する等、できる範囲の準備は行っている。
福島県大笹生学園	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ対策を継続して行うこと。 ・マスク、防護服、消毒液等の感染対策用品を備蓄すること。 ・感染者が発生した場合の、ゾーニングの検討、PPE脱着方法の練習など、基本的な対応策を検討すること。
医療型児童発達支援セン ター おひさま	県中	自施設における新型コロナ対策、センター基準により対応
プレップスクール大黒教室	県中	衛生用具の備蓄・学校休校時の利用を促す(学力低下防止)

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q7 今後の備えについて
社会福祉法人安積愛育園 こどものひろばプリモ	会津	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、ドアノブ、玩具等の消毒は実施。出入り口での手指消毒 ・衛生用品の備蓄 ・法人として入所施設もあるため、感染者がでた場合の職員の連携体制を示したフローチャート作成
-	相双	<p>ニュースなどの情報により、感染する経路が理解されたので、徹底した手指の消毒に努めることにした。利用する児童の動きを考慮し、学校から送迎車両に乗る時点でのアルコール消毒を行う。児童の利用した玩具等のアルコール消毒、ドアのノブなどのアルコール消毒を行う。コロナ対応の研修会に参加したことで、アルコールの濃度も重要と知り、目的により濃度の違うアルコールを使い分けることにした。</p>
桜が丘学園	県中	<p>感染予防対策委員会を立ち上げマニュアルを作成しました。施設内において発症した場合のシュミレーションをし、具体的な対応を協議しているところです</p>
児童通所支援 ゆずりは	県南	<ul style="list-style-type: none"> ・今後他の感染症の心配もあるので、児童の受け入れの仕方や職員の勤務体制について等検討が必要となる。 ・衛生用品が不足しないように補充している。 ・利用者及び家族の方の休日の過ごし方や体調面などの聴き取りや把握をしてい行く。
のびっこらんど相馬	相双	<p>事業所玄関先にタブレット型サーマルカメラ設置。主にマスクや消毒液等の衛生用品の備蓄。</p>
重症心身障がい児通所支援 事業所aozora・リノ	県北	<p>衛生用品の補充、面談室の変更、保護者ヒヤリング等のオンライン対応。 医療的ケア児等における感染リスクのない、かつ医療機器等のある災害時避難場所の確保。（協力医療機関等と協議中）</p>
放課後等デイサービス事業 所 光の家	いわき	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の消毒の徹底と、職員の勤務外行動に注意してもらい、防止に力を入れている。 ・衛生用品の備蓄。
児童通所支援事業所しゃぼ ん玉	県中	<p>事業所での対応指針（濃厚接触者の同居家族）</p>
児童通所支援事業所くるみ	県中	<p>衛生用品が大分出回り始めているのでこの機会に備蓄を行っている。</p>
キッズスペースぶらーぼ	県中	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生用品の備蓄 ・感染予防とともに、感染後、自分達が広げずにどう対応できるかを共有している。 ・段階的な対応は確認できている（休校→規模縮小、事業所内感染→休業など）。
障害児通所支援 あしび	いわき	<p>・職員の体温測定、マスクの着用の徹底、事業所内に入る際にアルコールの徹底をしチェック表に毎日記載している。また、アルコールや、換気の時間を決め実施している。交付金を活用し、マスク、アルコール、フェイスガード、マウスガード、飛沫防止アクリル板、オゾン発生器（室内、車）を購入し今後に備えている。</p>
放課後等デイサービス宙	県北	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生用品(マスク、手袋、消毒液、オゾン発生器等)の準備。 ・法人及び事業所としての対応指針の作成。
放課後等デイサービス れ いる d	県中	<p>消毒、手洗い、うがいの徹底、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用の促しなど継続していきます。 法人で新型コロナウイルス対策マニュアルを作成した。</p>
放課後等デイサービスNICO 吉倉	県北	<p>各事業所ごとに光触媒の塗布 衛生用品の備蓄</p>

福島県自立支援協議会子ども部会 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

事業所名	所在地域	Q8 その他の情報共有事項
ゆうゆうクラブ	相双	室内、遊具、トイレ、送迎車、屋外遊具など、チェックシートをそれぞれ作成し、細かく消毒箇所をピックアップして、消毒漏れが無いようにすることは有効だと思います。
-	県南	県や市町村の窓口だけでなく、所属しているエリアの自立支援協議会などの団体に対して要望を上げることによって、担当窓口で正確かつスピーディに情報が上がる場合があるので、うまく活用すると良い。現に県南地域では、自立支援協議会子ども部会を通して要望書を提出した経緯がある。
-	県北	うがい用の使い捨て紙コップ、ペーパータオルを利用し予防に心がけ、飛沫感染および接触感染を避けている。
オハナ・おうえんじゃー (ハナイ・リノ・マカナ)	県北	・安達管内では地域の事業所の有志が集まり、緊急時協力体制について、オンライン会議で話し合いを進めています。 ・基本的には「公共性が伴う社会的要請により事業を行う組織」に分類される事業であることを念頭に「行政等からの休業の要請がない限り出来る限り事業を継続する」ことを共通認識し、地域の福祉体制の維持や協力体制について話している。 ※新型インフルエンザ等特別措置法の第3条から第5条の中で事業所の責務が定められている。
-	会津	・体調管理の判断基準の1つである体温について、平熱一覧表や平熱より高い場合の対処マニュアルを周知する。
こども支援センターハイジ	県北	掃除機を使用するとかえってウイルスを撒いてしまう可能性がある為、フローリング部分については、ドライシートによる拭き上げと、次亜塩素酸系の希釈溶液を使用した水拭きで対応しています。
放課後等デイサービス 楓	県南	・緊急時に備えて、別な保育・療育場所の保持。実際に矢祭町では隣県が関東（茨城）ということもあり、準備を行っている。
のびっこらんど美山	県中	・当事業所では、言語聴覚士が言語指導を行っていますが、発音の指導をする際、スタッフも利用児も、フェイスシールドを使うようにした。口元が見えないと訓練ができない為です。同じく、ことばの理解が弱い利用児のグループ指導の際は、スタッフの表情が見えるようにマウスシールドを使用している。
重症心身障がい児通所支援 事業所aozora・リノ	県北	山形市の取り組み 学校休校により、行政・事業所・利用者（保護者）での「oneチーム宣言」がされ、市職員が児童施設を訪問し事業所職員への激励金給付で慰労し、休校期間の利用者負担を市の全額負担とする保護者への配慮を図った。 (全国重症児者デイサービス・ネットワーク オンラインミーティングでの情報)
-	県北	・子どもたちが十分な手洗いができないため（石けんで十分に洗うということ）、ピカチュウのセンサー式の石鹸ツール（ミュージ）を導入したところ、楽しんでしっかり手洗いができるようになった。
こどもサポート教室『ク ラ・ゼミ』福島校	県北	放デイ協議会などでいろいろな話がありましたが、消毒、ソーシャルディスタンス、時間のずらし、マスクの徹底、などいろいろな施設で実践しているようです。
放課後等デイサービスNICO 吉倉	県北	就労している保護者からは、送迎時間に対応ができないのでなんとかならないかという相談があった。イレギュラー時の受け入れ時間や送迎時間を事業所毎に公表して頂ければ、併用利用などができたのではないかと思います。